



校長
有本明彦

校長より

平成29年度は、誕生地校地では小学部8名、中学部19名、高等部4名が、弓削校地では高等部46名が入学し、全校児童生徒数は229名でのスタートになりました。

本年度も、地域の方々や関係機関の方々との「つながり」を大切にしながら、「子どもたちが笑顔で、生き生きとした生活にあふれる学校」「教職員が元気で、生き生きと勤務できる学校」づくりを目指して、大切な人を大切にする学校にしたいと考えています。

そのため、本年度、『学校経営への思い【5つの追求】』を次のとおり掲げています。

平成29年度 学校経営への思い【5つの追求】

- 1 子どもたちの自立(成長)と幸せを追求します 『服務』**
 - ◆子どもたちの成長と授業者の困り感の解決が実感できる日々の授業改善(授業力向上)に努めます
 - ◆保護者と自立支援協議会(相談・福祉・行政機関等)との繋がりをつくります
- 2 教職員とその家族の幸せを追求します 『やりがい』**
 - ◆お互い(同僚)を大切にし、支え合う職場をつくります
- 3 『チーム誕生寺』を追求します 『危機(安全)管理』**
 - ◆常に、組織(チーム)で行動します
- 4 人間性と専門性を追求します 『使命感と向上心』**
 - ◆使命感と倫理観を高め、自己研鑽に励み、学び続けます
- 5 定時退校を追求します 『元気と健康』**
 - ◆「誰が」「何を」「いつまでに」「どのように」(3W1H)を明確にします
 - ◆会議を精選し、仕事の進め方等に課題意識をもち、提案・改善(「紙一枚」)に努めます

本年度もどうかご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

本校の紹介

本校は、昭和46年4月に知的障害の児童生徒を対象として開校し、その2年後に高等部が設置されました。

平成15年には肢体不自由部門が併設され、さらに、平成24年から知的障害部門高等部に職業コースが設置されました。

平成25年度には、児童生徒の増加に伴い、近隣の閉校になった県立高等学校の校舎を活用し、知的障害部門の高等部が単独で教育活動を展開することになり、二つの校地(誕生寺校地・弓削校地)を有する学校となりました。

現在、知的障害部門と肢体不自由部門の併設校として、小学部から高等部、そして、寄宿舎を有しており、知的障害部門高等部には「職業コース」「生産コース」を設け、訪問教育も実施しています。

本校は、地域との関係・連携を重視し、密接な関係で学校の教育活動を展開しています。地域を学習の場としたコミュニケーションワークの実施や町の協力で設置運営をしているアンテナショップ『夢元』の展開、授業、余暇活動、登下校の見守り支援等の地域ボランティアの活用等、地域と深くつながりながら教育活動を進めています。

平成29年度 学校経営計画書

岡山県立誕生寺支援学校

○本校のミッション（使命、存在、意義）

- 児童生徒の基本的な生活習慣を養い、健康で豊かな心と体を育成し、自立と社会参加を目指す。
- 関係機関等との連携を図り、専門性の高い教育支援を提供し、児童生徒の発達と働く意欲を育てる。
- 特別支援教育のセンター的機能を発揮し、美作地域の特別支援教育体制の充実と発展を推進する。

○学校内外の環境分析

	内部環境	外部環境
強み	<ul style="list-style-type: none">・教職員間の協力体制があり、同僚性が高い。・お互いの良さを認め合う場と風土がある。・寄宿舎との連携により、生徒指導が充実している。・若手教員が伸びている。（専門性を含めて）・教職員が明るく前向きで、新しい試みを受け入れる環境にある。（意欲的で行動力がある）・チームで仕事ができる。・ヒヤリハットを共有し、常に改善する意識が高い。	<ul style="list-style-type: none">・地域の多くのボランティアの協力体制があり、交流が活発である。・豊かな自然を生かした学習活動ができる。・アンテナショップが地域に定着し、生徒の学びが広がっている。・コミュニティーワークの場が増え、体験学習の場が充実している。・近隣の小中高や大学と交流が充実している。
弱み	<ul style="list-style-type: none">・積極的な授業公開が不十分で、授業後のC→A→Pが弱い。（PDCAサイクルのCAが非効率）・研究や研修への意欲や取組が、二極化傾向にある。・教科の授業が受けられるようなイメージがない。・2校地の繋がり（連携）や連絡調整に時間がかかる。・組織が大きく、共通理解が難しく、責任や仕事量も偏りがちである。（超過勤務者の固定化）・教材費の執行、会計処理が校内統一されていない。・専門性や進路指導等の知識理解が不十分である。・会議が多く、授業準備が不十分で多忙である。・危機管理意識が甘く、担当任せになっている。	<ul style="list-style-type: none">・通学区域が広く、交通の便が悪い。・校区が広く、福祉等の情報の伝達が浅い。・自立支援協議会との繋がりが薄い。・小中学校が、センター的機能に依存しがちで、各地教委の指導が不十分である。・高校への専門的な関わりが薄い。・県南に比べ、卒業後の進路先が少ない。・研修への外部講師の招聘がやや困難である。・遠距離通勤者が多く、就労に影響している。・地域資源や実習先が少ない。・進路に関する知識や情報が乏しい。（県北）

○ミッションの追求を通じて実現しようとする本校の学校経営ビジョン（将来像、目指す姿）

- 児童生徒にとって・・・基本的な生活習慣を習得し、積極的に社会と関わり、社会性が育つ学校。
- 教職員にとって・・・使命感と倫理感を高め、組織（チーム）で行動し、学び続けられる学校。
- 保護者にとって・・・安心して子どもの教育を任せられる信頼のある開かれた学校。
- 地域にとって・・・高い専門性によるセンター的機能（役割）を果たし、地域に開かれ信頼される学校。

○当該年度の具体的な学校経営目標・計画

1 動きをつくる学校

- (1)教育活動全般において、PDCAサイクルのC・A（評価・改善）の機能化を図る。
- (2)授業者支援システムを導入し、指導者の困り感の解決を図り、授業改善と指導力の向上を図る。
- (3)地域資源を積極的に活用し、地域全体を学びの場とするコミュニティーワークを拡充する。
- (4)危機管理意識を高め、安全・安心な学校生活の充実を図る。
- (5)「校内チーム制(OJTシステム)」の取組を充実させ、両者の資質能力・指導力の向上を図る。
- (6)教材費等の執行など、校内会計処理等の統一化を図る。

2 動きをつなぐ学校

- (1)教員が自立支援協議会等とのつながり（連携）を強化し、地域障害福祉に関する理解を深める。
- (2)保護者・児童生徒が自立支援協議会とつながり、各地域の福祉活動に積極的に参加する。
- (3)関係機関との3つのネットワークづくりを組織的に推進・強化する。
①働く支援ネットワーク ②家庭支援ネットワーク ③安全・安心・見守りネットワーク
- (4)常に使命感と向上心を持ち、学び続ける「チーム誕生寺」としての教職員の自覚と誇りを高める。

3 動きが見える学校

- (1)教育活動を保護者や関係機関等に積極的に情報発信し、本校教育への理解と啓発に努める。
- (2)進路指導の知識を習得するとともに、進路情報等の保護者への積極的な提供を図る。
- (3)教科（ことば・かず含）と作業学習のバランスを図り、児童生徒の自ら学び、働く意欲を育てる。
- (4)仕事の進め方を見直し、会議の精選と提案資料等の改善（紙一枚）を図り、長時間勤務を解消する。